

二段免状獲得女性将棋大会の開催にあたって

阪野 壘 2022年11月23日

昨年の初段獲得戦に続き、二回目の免状獲得女性将棋大会です。

昨年4月の西山朋佳女流二冠の奨励会退会をきっかけに、将棋を指す女性が増えて欲しいと思うようになりました。そして、女性が気兼ねなく楽しく将棋を指せる大会を開催したい思いから、この大会をはじめました。

昨年の大会では対局後毎にとてもリラックスした様子で楽しそうに参加者同士が交流していて、これまでの私が参加してきた男女混合の大会では、男性にも女性にも見たことのない、とても良い雰囲気だと感じました。また、夏にはローソン杯女子団体戦に小学生の姪が参加しました。彼女は飛び込みで初めてお会いする方々のチームで参加しましたが、たくさんのチームメイトや対戦相手の方々が、対局のないときに声をかけてくださっているのを目にしました。女性の将棋プレイヤーが互いを大事にする様子に、とても感激しました。

何よりも、女性の皆様がのびのびと、そして楽しく将棋を指している姿が、刺激を受けています。

昨年は西山先生の奨励会退会にショックを受けたのですが、その後、里見香奈女流六冠が棋王戦の本戦出場し、さらに棋士編入試験資格を獲得する大活躍をされました。編入試験では劣勢の最終盤、これまでに見たことのない蒼白の表情で一手一手指しすすめる姿には、里見先生の懸けているもの、背負っているものの大きさを感じさせられました。

将棋は目の前の勝敗に目を奪われがちですが、その姿から彼女たちが『一人目』として、達成してきたこと、そしてそれをまだ前へ進めようとしていること自体が、もっとも尊いことだと、今更ながら考えるようになりました。

大人が楽しく真剣に将棋を指している姿は、子どもたちに将棋の明るい未来を見せると信じています。

若者がのびのびと将棋を指し成長する姿に大人は刺激を受けます。

最前線を引っ張る者と、中を膨らませる者も互いに刺激し合い、女性が将棋を今よりもっと楽しめる世界が広がっていくのだと思っています。

二段免状獲得将棋大会が、皆様にとって、少しでも楽しく将棋を指す機会と将棋を続けていく一助になれば、嬉しく思います。

足元の悪い中、参加してくださった皆様と、参加者の引率の皆様にご感謝いたします。

特に、この将棋大会は、趣旨に賛同していただき、準備運営をしてくださる、北尾まどか女流二段、直江雨続先生、ねこまど将棋教室のスタッフの皆様のおかげなくしては開催できないものです。また、web上でも多くの方々に周知の協力をいただきました。準備運営そして、応援してくださったすべての方々に感謝いたします。